

京都教区時報

第181号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



共に祈る 我等 家族
共に歩む 我等 家族

共に痛む 我等 家族
共に喜ぶ 我等 家族

共に生きる 我等 家族
共に信じる 我等 家族

共に集う 我等 家族
共に目ざす 我等 家族

共にありなん 我等 家族
共に働く 我等 家族

キリストと共に
キリストのうちに

キリストにおいて
キリストによって

開き迎えられる 我等 家族
開き出て行く 我等 家族

世界を歩む 我等 家族
社会と共に 我等 家族

御父と御子と聖霊の交わり
今も何時も世々とこしえに

(村上透磨神父)

'92年度 第12回

司祭修道士夏期研修会報告

●テーマは「家庭」

'92年度第12回司祭夏期研修会が、8月24日から26日まで、二条駅前弥生会館で行われた。参加者は司祭、助祭他約26名。テーマは「家庭」。広岡洋子さんを講師に、正平協のシスター橋本、ノートルダム修道女会のシスター石崎、園部教会の寺尾師を発題者として話し合いを行った。

●問題を共有・共感する

第1日目は、柳本師から第2回ナイスの流れ、村上(透)から第1回のナイスの流れの報告、説明があった。2日目は、午前の部で、広岡さんからマリアンホーム、マリアの里、ボランティア協会設立者として、またカウンセラーとしての豊富な経験からナイスの課題、家庭について話していただいた。午後、シスター橋本から、部落問題委員会からの司教団への提案の説明があった。また、シスター石崎からは、修道家族として見た家庭の問題について。寺尾師からは、昨年1月から毎月第2月曜日

に行われている家庭委員会の報告があった。その後3つのグループでの分科会が行われた。4人の方がたからの話を念頭におきつつ、ナイスの課題第一段階、すなわち、問題の共有、共感を目ざして話し合いを行った。

当初の計画では、信徒公聴会的なものにしてはという計画もあり、信徒の方にも入っていたべき準備を始めようとしたが、時間その他の制約から今回は従来どおり、司祭修道者中心の研修となり、公聴会は別の機会にということになった。

家庭の問題を、家庭を持たぬ司祭が知るはずもなく、いくら話しても意味がないという考えもある。しかし、司祭は司祭としての思い、悩み、また司祭であるがゆえに、見えることもあるかもしれない。司祭もある家庭から生まれてきたのだということを忘れることなく。

●家庭と家族

広岡洋子さんの講演内容をここですべて紹介することはできないが、ただ私の印象をいくつかご紹介

介したい。

家庭における母親の役割を見直さねばならない。母性、胎内から一才半頃までに至る母親の持つ重大な役割。家庭の2つの機能、育児機能と情緒安定機能における母性の役割。人格形成に欠かせない原信頼。胎・乳幼時期の体験の重要性。愛と信頼の大切さ。また、人間形成をしていく上での共通の基盤としての信仰の重要性。母を語る時、即ち母性を語る時、夫婦関係の相補性やバランスが要求されること。

性格の不一致は当たり前で、むしろ夫婦の相補性、ゆるし合いこそ必要であり、また「待つ事」の重要性を知らねばならない。

母親の家庭における重要性はとりもなおさず父親の重要な役割を促す。母親である事は一人の妻であり女性であり、一人の子としての関りから生まれるものだから。

●家庭は信仰の道場

具体的なこととして次のようなことがあげられる。たとえば七・五・三を単なる祝

いとしてだけでなく、発達心理学上の重要なポイントとして考えてみるべき点であること。

結婚講座の充実が望まれること。家庭の中で、夫婦を中心に行われる心理的教育的宗教的側面の講話、研修の必要性。夫婦の共通の基盤としての理想教育方針、価値観、信仰等の大切さ。

信仰や愛に基づいた家庭(中心は夫婦の交わり)こそ、まさに人格、信仰の道場すなわち教会なのだと言う事の自覚と使命感に目覚めること。

●まず分かちあうこと

話し合いは、講師の発題を頭に入れながら、司教団からの課題の第一段階をできるだけ徹底させることにあった。即ち、司祭として家庭を見た時に、「何が問題になっているのだろうか」を話し合った。大切なのはまず話し合う事であり、いろんな思いを知る事にあった。一応簡単な報告はなされ、話し合いのノートは残されているが、大切なのは、報告よりも分かち合いにあるという共通認識にあった。必要とあれば別の機会に報告させていただく。尚、3日目は、今後の研修会に向けての話し合いをした。

(文責 村上)

(投稿)

共同体の中の人権意識

御近所の人達は、カトリック信者は真面目で温厚でやさしくて親切、人のワルクチや狼談はしないと信じています。一部の信徒の中には、その評判に悪乗り気味の人がいます。

中年女性5人ほどのおしゃべりの途中、ある活動家の言葉です。「皆さんを信用して言うけれど、誰にもいわないで。ここだけの話だからね。ここにいるAさんは韓国人なの」。どうしてここだけの話なのか。どうして信用しなければ話せないのか。何故急にAさんの素性を発表しなければならぬのか。フィリピン系アメリカ人だ、ドイツ系カナダ人だとひそひそ噂話をするのでしようか。活動家は、

「Aさんが本名で暮らせないのは私達日本人の責任です」と言った。活動家は信者達には、「Aさんの妹Bさんは韓国名で暮らしているのにAさんは隠して暮らしている。韓国と言っただけで逆上する」と言い回った。15年前、Bがどんな思いで本名にもどしたとか、そして子供達がどれ程いじめられたとか。曰く、ある信者がソウル空港へ降りたら臭かったと言ったら、Aさんは激怒した。Aさんはいつもピリピリしているのも何も言えない。韓国人は怖い。ある親切な信者は「例の活動家が全部にしゃべったので、もうかばえない」と言います。本当でしょうか。韓

国人はかばわなければならぬ様な存在でしょうか。ある老信者は、「韓国人は皆だロボウです。両親も言っています

た」また、あるベテラン信者は親切心から「韓国人でも恥ずかしがることはないのよ。最近の韓国は近代化されてきたし、経済も発展しているから誇りにしているのよ」と言います。ではカンボジアやミャンマーの人々は貧しく多くの問題をかかえているから、恥じ入って暮らさなければならぬのでしょうか。

これらの人達は日本人はアジア人より尊いと思いをし、相手を見下し、また、自分は親切で善良だと思ひ込んではいないでしょうか。修道院で修行したことがある信者が「洗札を受けると神の恵みが違うから一日も早く洗札を受けなくて」と言います。神様は信者と未信者を差別していらっしゃるのでしょうか。聖書には私が愛したように愛しあいなさい。あなたがして欲しいと思うことを他人にもしなさい。

と、書いてあります。チェルノブイリから、日本のささやかな援助に対して送られてきた札状から自分の名前を削除して発表するC牧師の謙虚さを見習いたいものです。御近所の人達の信頼に正しく答えたいものです。少々聖書を勉強したからといって、少々ボランティア運動をしたからといっておごることなく、神の御旨に従う勇氣を持ちたいものです。

日本の社会で、また、教会共同体の中で反対意見を出したり、怒ったりするのは、大変はずかしいことです。友人を失うこともあるでしょう。でもにせ者の友情から始めからなかったも同じことでしょう。不正、理不尽なことがらに對して声をあげるからこそ、キリストの十字架ではないかと思われます。

(匿名希望)

語って下さい

パンが
家がふくらむ

長崎への道

8名

1000キロの道巡礼を完歩!

京都教区から8名の女性が長崎への道の巡礼を完歩いたしました。



- ・シスターモーリン (メリノール会)
- ・三牧絃子さん (衣笠教会)
- ・川上みどりさん (衣笠教会)
- ・内田京子さん (衣笠教会)
- ・加藤ナミエさん (衣笠教会)
- ・西村淑子さん (衣笠教会)
- ・相羽妙子さん (河原町教会)
- ・シスタークレメンチア (ウイチタ聖ヨゼフ会)

(ウイチタ聖ヨゼフ会)



「世界キリスト教情報」から
 ◎**教皇、健康回復、ハイキングも**
 ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は手術後の回復も順調で、夏の別荘カステルガンドルフから約二週間の予定でベニス北方イタリア・アルプスのドロミテ地方に滞在する。ホアキン・ナバルロバル報道官は8月20日、教皇がサンドイッチを持ってハイキングに出掛けたと伝えている。(CJC) (1992年8月31日号から)

◎**米国のヤングは**
 青少年に聖書に触れさせるのは大事といっても、聖書を理解させるのに何か良い手法はないか、成

人の耳にはおおよそなじみにくいラップ・ミュージックを使えばどうか。米聖書協会は、悪魔が入り込んだ豚が海に飛び込むマルコによる福音書第5章1・20節をニューメディア化した。製品はレーザー・ディスクになっており、IBMパソコンか同互換機で使える。ただしレーザー・ディスクの利用装置(ドライバー)は必要。コンピュータのない人向けにはビデオ版も用意されるという。(CJC) (1992年8月24日号から抜粋)

「世界キリスト教情報」はNINTENDOのORDを通じ、大阪JOSEPHINEからCDキリスト教情報です。

'92 聖書週間 へみことばをかうく

書道展・絵画展応募要領

◇主催 京都教区

カトリックきょうと福音センター聖書使徒職委員会

*内容は聖書の中から自由に選んでください。

◇趣旨

聖書を生活の中にいれていく

*申込み用紙と出品料を作品に添えて出品してください。

◇参加資格

(イ) 子どもの部
幼児から高校生まで
(ロ) 成人の部
一般社会人(どなたでも)

*全員に参加賞をさしあげます
(子どもの部は入選者に表彰状)
*取りに来られる方には作品をお返しいたします。

◇出品要項

(1) 出品点数 書道:2点まで(公作も可)
絵画:2点まで(公作も可)

*出品締切:10月31日(土) 厳守

(2) 大きさ 書道絵画とも自由
表装、裏打ちなし

*送り先:カトリックきょうと福音センター
〒604京都市中京区壬生淵田町26
☎075-822-0123

(3) 出品料
どちらも1点につき
子どもの部は200円
成人の部は300円

*展示会 西院カトリック会館
1階ホール
11月20日(金)から11月29日(日)
*申込み用紙はカトリック福音センターにお問合せください。

御言葉はあなたのごく近くにあり、
あなたの口と心にあるのだから、
それを行うことができる。

申命記 30章14節

中学生 広島体験学習に参加して：

四倉玲子(大津)

8月4日～7日、今年も19名の中学生と共に広島に行きました。今回は広島へ行く前に大津教会に一泊し、主に原爆についてのビデオや話を聞き、作文を書きました。この作業で一人一人の中で広島に行く目的の様なものが持てたのではないのでしょうか。

5日は大津から広島へと出発しました。姫路から広島までは、クーラーはもとより扇風機さえなく、座席が直角の、正に「ドンコウ」という名に相応しい世にも珍しい電車に乗りました。リーダーのAによると、極めて稀な確率の中のしたとのことでした。

広島に着いて間もなく私達は平和行進に参加し、終着点である世界平和記念聖堂(幟町教会)まで、平和を願う歌を精一杯歌いながら、歩きました。そして世界平和と原爆犠牲者慰霊のためにミサを捧げました。壮大で美しい聖堂に、オーケストラと聖歌隊の音が響き渡り、総勢60人の司祭、待者の行列……何をとっても素晴らしくて

何度も感動を覚えました。6日は田中司教様にお話を頂いたり、8時15分、原爆投下された時間に、相生橋で平和の鐘を聞き、平和公園内の記念碑・資料館を班ごとに見て回りました。ただ見るだけではなく、一つ一つにどんな意味があるのかを確かめながら歩きました。また実際に原爆を体験された方のお話を聞き、班ごとに分ち合いをしました。昨年の分ち合いでは結果的に「戦争はイヤ」「原爆は怖い」「平和がいい」といった意見ばかりでしたが、今年は『では自分達は何が出来るか』を中学生自身から沢山の意見が出されました。広島で一番考えなければならぬ事です。それが自分の心に生まれなければ広島へ来た意味はないのです。その意味で、今年は大成功だったのではないでしょうか？

あんてな

広島で知った事・考えた事・感じた事をいつも忘れずに、自身に身近な所から平和を作ってゆける様に願っています。リーダー達も色んな刺激を受けました。本当に行って良かったです。また来年も「青春18きっぷ」を握って、「ドンコウ」で……。

正義と平和協議会議演会から

家庭にひそむ農薬

糖みその会

去る6月28日(日)午後2時から、カトリック会館において、糠みその会と京都南部平和への歩み実行委員会との共催で講演会を持ちました。そのテーマは、「家庭にひそむ農薬」でした。講師は日本消費者連盟関西グループの山崎昌子さんで、10年以上家庭内農薬と取り組み、行政との接触を通して具体的な動きを母親たちとともにしてこられた方です。

参加者は70余名でした。私たちの身近なところにひそむ農薬、例えば殺虫剤、タンスの中の防虫剤、まな板などの抗菌剤、掃除機の中の防カビ、防ダニ袋などが、赤ん坊や幼児を知らないうちに汚染しつづけることについて、具体的にわかりやすい話をしてくださいました。つづいて、玉ねぎとほう酸を使った「ゴキブリだんご」の作り方を実践していただきました。

あまりにも身近すぎて気付いていない人が多く、驚きの声があがっていました。また、声をあげることのできない幼い子どもたちのいのちが、知らないうちに、そこなわれていることは、子どもたちの人権が大切にされていないことだと気がきました。

環境問題は、人権問題と密接に結びついています。それで、今後その観点から取り組んでいきたいと考えています。

お知らせ

教区スケジュール

11月

- 1日(日)衣笠墓地・大日山墓地 共同墓参
- 2日(月)死者のためのミサ (聖母学院中等学校)
- 3日(火)京都ウオーカソン
- 5日(木)司祭評議会(河原町カトリック会館)
- 8日(日)希望の家バザー
- 9日(月)家庭研究会(河原町カトリック会館6階ホール) 午前10時30分から13時
- 14日(土)〜15日(日)教区青年のための黙想会
- 15日(日)富雄教会堅信式 親交会例会
- 20日(金)〜30日(月)みことばをこう書道・絵画展(西院カトリック会館)
- 21日(土)正義と平和協議会学習会「全国大会報告」(河原町カトリック会館)
- 22日(日)教区一斉京都教区創立記念ミサ・アジア交流の日

23日(月)京都府北部信徒連合会

ウオーカソン

(宮津〜天橋立)

びわこウオーカソン

(滋賀県連合会)

28日(土)〜29日(日)青年センター

運営委員会

29日(日)聖書講演会

(聖書使徒職委員会)

行事予定 信徒使徒職養成コース・基礎コース

▼「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 686,582円

加入者数 468名

(8月19日現在)

「一万匹の蟻運動」の役員をご報告いたします。

理事長 橋本泰爾(高野) / 副理

事長 能勢 慎(桃山) 齊木神父

(教区) / 常務理事 柴田敦代

(宇治) 中川浩永(西陣) 松本神

父(西院) / 理事 山野 一(長

岡) 石井邦香(八幡) 松尾昭三

(伏見) / 幹事 白浜広史(宇治)

米津富造(桂) / 顧問 田中健一

司教 村上司教総代理

▼正平協学習会

日時 10月17日(土) 19時から

テーマ ラテンアメリカにおける

基礎共同体

発題 ホセ・A・ロベス

場所 河原町カトリック会館6F

最近ラテンアメリカから帰ってきた

ロベス氏から基礎共同体のホッ

トなニュースが聞かれます。ぜひ

ご参加ください。

▼コンサート

「インドへ友愛の手を」

日時 1992年11月29日(日)

午後2時開演

会場 京都府民ホール(アルテイ)

入場料 一般2,500円

学生2,000円

当日(3,000円)

問合せ 東朝子 0757812049

田中彰子(事務局)0752116505

▼みことばをきこう―主よ、祈る

ことを教えてください―

講師 渡辺幹夫神父

(カルメル会)

日時 1992年10月25日(日)

午後2時から4時半

場所 聖ドミニコ女子修道院

対象 青年男女

参加費 無料

申込み 左記に葉書または電話で

お申込みください。

602京都市上京区河原町今出川梶井

町448 聖ドミニコ女子修道院

0752312017シスター

田井またはシスター鈴木まで。

申込み締切 1992年10月20日(火)

1992年度信徒使徒職養成コース

▼第91回基礎コース

日時 1992年11月20日(金)から

22日(日)

場所・滋賀県大津市唐崎メリノ

ルハウス

費用・1700円

定員・25名

申込み・問合せ

カトリックきょうと福音センター

☎07558227123

▼青年センター&JCOO

合同ソフトボール大会

11月15日(日)午前9時から

参加チーム募集中です。

問合せは青年センターまで。



▼南部平和への歩みより

ポスターでお知らせしてました東ティモール人・シマオン・バレットさんのコンサートは都合により中止となりました。